

野麦街道と集落と集落を結ぶ里道

ようしょう さと
～交通の要衝として発展を遂げたあたらしの郷～



野麦街道と道祖神（北新）

新村の道

野麦街道が集落を繋ぐように東西に走り、東の松本町・島立地区、西の波田・安曇・奈川地区や飛騨国の人々の往来や物資の輸送に重要な役割を果たしてきました。新村地区はこの野麦街道を中心にして、交通の要衝として発展してきました。近代になると大正10年（1921）に筑摩鉄道（現在のアルピコ交通）が開通し、新村駅を中心に栄えました。

地区内には、集落と集落を結ぶ里道が縦横に通っています。この道筋には道祖神や馬頭観音などの石造物や小さな社やお堂があり、そこでは観音講や数珠回し、様々なお祭りなど人々の祈りや娯楽の場が設けられ、今も続いています。

～「まつもと文化遺産認定書」の一部より～

やすづかだい ごう こふん
安塚第6号古墳 (松本市特別史跡)

31

安塚第6号古墳は、昭和53年(1978)県営ほ場整備事業の際、安塚で9基の古墳が発掘調査されたうちの1基。入口は南向きで前室・中室・後室の三室に仕切られていた。副葬品は少なく、開田のときに荒らされたと思われる。古墳時代後期の古墳で、現地に保存されている。



にいむら どうろげんびょう
新村の道路元標

32

野麦街道と中村道との分岐点、元新村役場前に「新村 東筑摩郡道路元標」と刻まれた道路元標がある。新村の道路元標は大正11年(1922)に長野県の施策によって設置された。昭和5年(1930)まで新村役場はここにあった。



あきばはらだい ごうこふん
秋葉原第1号古墳 (松本市特別史跡)

33

南新秋葉原第1号古墳は昭和63年(1988)に松本市特別史跡に指定された。この古墳は昭和57年(1982)のほ場整備に伴う発掘調査の際、発見された古墳時代末の円墳。元の位置は約80m南東にあり、南向きに入り口があったものを移転地の都合で東向きにした。



ねいし どうひょう どうそじん
根石の道標と道祖神

34

高さ38cmの楕円形の自然石に「左ハ大つま 右ハまつもと」と刻まれている。急な坂を下って横道を通り渡船場へ。梓川にまだ橋が架かっていなかったので歩くか舟で渡った。横道との分岐点に道標と道祖神が立つ。



きたにい
北新のビャクシン (松本市特別天然記念物)

35

松本市特別天然記念物に指定されている。高さ15m、目通り80cmの巨木、ヒノキ科。手入れ後、樹勢を増した。古くは西牧家の屋敷内、子神社(今は体鋳社(たいけんしゃ))社地にあったもの。高札場跡地からよく見える。



ひがしにい どうひょう
東新の道標

36

東新青年会は大正10年(1921)9月、東新地区内に三基の道標を立てた。この年は筑摩鉄道が開通。東新地区東辻の道標に「(北)向 右新村驛ヲ経テ野麦街道ニ通ズ 左島立村ヲ経テ松本市ニ至ル(東)向 右下新驛ヲ経テ梓橋方面ニ至ル 左境ヲ経テ二子橋方面ニ至ル(裏)東新青年会」と刻まれている。



さんめいざん せんしょうじ
三明山 専称寺

37

間口10間、奥行10間と大規模な本堂は近在では最大級。入母屋造り、唐破風向拝(からはふこうはい)付、廻縁(まわりえん)付。本堂には本尊阿弥陀如来のほか薬師如来、子安地藏尊、子育吞龍上人(どんりゅうしょうにん)などが奉安されている。昭和の初め群馬県大光院より吞龍上人を勧請したことから、当山を『吞龍様』とも呼ぶ。徳本一行は文化13年(1816)6月29日新村専称寺に来た。その日の化益(けやく)で配布した名号数5598枚に及んだという。専称寺ではこの日名号塔造立願を出したが一か月半後に住職珠誉が亡くなったためか、11年たった文政10年(1827)に新五か村で造立した。塔の高さ234cm。



山門



百体観音像・徳本名号塔

祝殿

てんぱくしゃ

天白社

矢野同姓7軒で祀る。明治9(1876)年の『地引帳』に「天白社地 6歩 地番3143 字天白」とある。7月の例祭には天保9(1838)年の銘のある幟を立て五穀豊穰・家内安全を願う。ほ場整備の際、現在地に移り、令和2年に祠を改築した。



38

にいむらしょうがっこうはっしょうちほうねんじあと

新村小学校発祥の地 (法伝寺跡)

39

新村での近代学校の発足は早い。明治5年(学制以前)に県学開智校・第一小校村井・第二小校新村と開校。新五か村では明治6年(1873)7月学制に基づき、旧法伝寺跡に作新学校を開校。初代教員(校長)は武居用拙。翌明治7年に新村学校と改称した。



わかみやしゃ

若宮社

40



すわしゃ

諏訪社

41



とうりしゃ

刀利社

43



しゃぐじしゃ

社宮司社

44



にいむらいせきはくつげんば

新村遺跡発掘現場

42

新村遺跡の発掘調査は平成12年(2000)6月から同年10月にかけて行われた。調査担当者6名、協力者60余名により、奈良時代から中世にかけての生活跡が発見された。中世の建物址としては松本市では最大級。柱穴に協力者らが立つ。



発掘当時の様子

にいむらいせき

新村遺跡

45

松本大学の建設に先だって平成12年(2000)に埋蔵文化財緊急発掘調査が行われ、堅穴住居址48軒や堀立柱建物址9棟などが検出された。今まで不明だった新村の古代が明らかになった。松本大学は、開学十周年の平成24年に新村地区文化財保存会の説明を受けてこの碑を建てた。



大学敷地内にある遺跡碑

おのせいしじょあと

小野製糸所跡

46

小野製糸所は明治7年(1874)に創業。明治11年(1878)に器械製糸所となるが、動力は水力による。明治32年(1899)に繭の乾燥・長期保管のために三棟の繭蔵を建てる。南二棟は昭和4年(1929)に取り壊し、北一棟は平成29年に取り壊した。



もの たろういせきち

物ぐさ太郎遺跡地

47

新村は昭和3年(1928)に『物ぐさ太郎遺跡地碑』を建て遺跡地を整備した。新村物ぐさ太郎保存会は平成3年(1991)に洞沢今朝夫作の物ぐさ太郎像を設置し、折口信夫の歌碑を建てた。



物ぐさ太郎遺跡地碑



物ぐさ太郎像

かいこがみひ

蚕神碑

48

明治21年(1888)に安塚で建立した養蚕の神様の碑。明治になると養蚕が盛んになり、なかでも長野県は良質な生糸の産地として知られた。しかし、養蚕は病気で全滅する危険もあり、蚕神、蚕玉様などと言って養蚕の神を祀り、大当たりを祈願した。



安塚の蚕神碑

かみにいばとうかんのんぐん

上新馬頭観音群

1

大正12年（1923）に現在地に集めた。馬頭観音16体（文字13体、像3体）と「天明六年月日（1786）講中」と刻まれた如意輪観音像がある。中ほどにある馬頭観音が最も大きく古い（天保15年（1844））。毎年3月に20数軒で観音講を行っている。



馬頭観音群

こうしんどう

庚申堂

2

下新庚申堂の本尊は一面四臂（いちめんよんひ）の石造青面（しょうめん）金剛像。像の左右に「元禄十四巳天（1701）、九月八日下新村中」と刻まれている。腰には蛇を巻き、足元に二猿・二鶴を刻む。堂は集落の集会所に使われた。堂前に二十三夜塔がある。



青面金剛像

てんめいしゃ

天明社

3

小野神社参道入り口前に、神像や行者像や馬頭観音などの石造物が並ぶ。その中に「天明さま」と呼び、穂高の有明神社の開祖といわれる天明行者像がある。それは一本歯の下駄を履き、手には鈴を持つ。今も講の人々で祀る。



あみだどう

阿弥陀堂

4

下新阿弥陀堂の本尊は阿弥陀如来像で近世初頭の作。明治初年（1868）出川の孝道和尚がここに安置したという。堂前には徳本の名号塔などがある。近くの屋敷から貞和3年（1347）の板碑が出土している。上手（わで）町には古い町割が今に残る。



阿弥陀如来像

しょうじょいん

清浄院

5

清浄院は明治3年（1870）頃の廃仏毀釈の難に遭い僧侶は帰農し、建物は売られた。この時、青面金剛像などの石仏5体も二つに割られた。堂の前庭には祐天の名号塔や、道路拡張などにより集められた馬頭観音が20体ある。



青面金剛像

だいにちどう

大日堂

6

大日堂は東新地区の最西の地、共同墓地の中にある。堂は平成10年（1998）に建て替えられた。本尊は大日如来像（二体）。うち一体は素朴で地方色の濃い像、他の一体は均整が取れて中央色が濃い。境内に元禄6年（1693）の念仏供養塔がある。



大日如来像

じょうわ いたひ

貞和の板碑

7

昭和7年（1932）下新上手町の屋敷から三面の板碑が出土した。材質は緑泥片岩（りよくでいへんがん）。うち1面は梵字三字と「貞和三年（1347）四月十三日」の銘が刻まれている。松本付近で銘のある板碑の出土は唯一。長さ49cm。現在、松本市立博物館に保管されている。



松本市立博物館の説明書

しんにゅういん

信入院

8

北新信入院は三明山専称寺跡地に建つ。専称寺が安塚に移るとき境内にあった信入院や長養軒の寺中二か寺も移築した。北新中村の跡地には寛政11年（1799）に観音堂が建てられた。信入院境内に徳本と徳住の名号塔がある。



西国三十三番所観音

やすづか やくしどう

安塚の薬師堂

9

平成24年に薬師堂は改修され、お十夜の大数珠回しが復活した。薬師堂は安塚の人々の集いの場であり、かつては近隣からの参詣者も多かった。隣接地には庵主（あんじゅ）の無縫塔（むほうとう）や「当村女中」と刻まれた寛保2年（1742）の名号塔（みょうごうとう）がある。



新村地区マップ

野麦街道と集落と集落を結ぶ里道
～交通の要衝として発展を遂げたあたらしの郷～

凡例

- 野麦街道 (昔の道筋が残っている所)
- 里道
- 道祖神
- まつもと文化遺産の構成文化財



一等里道（主要な村道）

たかつなみち

高綱道（現市道7553号線） 10



県道野麦街道南新北安塚～東新を経て島立村に。

かわきたみち

川北道（現市道8026号線） 11



野麦街道上新西村～大妻道に合流する。

おおづまみち

大妻道（現市道8508号線の一部） 12



仁科道その二下新向新田～南安曇郡倭村へ至る。

わだみち

和田道（現市道7112号線） 13



高綱道南新日岐神社前～和田村蘇我へ至る。

なかむらみち

中村道（現市道7029・7533号線の一部） 14



野麦街道北新東村役場前～南新揭示場前

ひがしにいみち

東新道（現市道7028・7531号線の一部） 15



中村道北新中村～東新西村高綱道に合流する。

にしなみち

仁科道（現市道7164号線） 16



仁科道はその一、二、三あり。島内小宮境～本田、東新東村を経て和田村に至る。

よこみち

横道（現市道8180号線） 17



野麦街道南新根石～大妻に至る。

二等里道

わでまちみち

上手町道（現市道7028・7508号線の一部） 18



二等里道。仁科道、下新本田～北新中村で東新道に合流する。

その他二等里道

しんばしみち

新橋道… 19

現市道8508号線の一部

かみにいなかみち

上新中道… 20

現市道8619号線

みなみやすづかみち

南安塚道… 21

現市道7543号線

やすづかよこみち

安塚横道… 22

現市道7036号線

しばさわみち

芝沢道… 23

現市道7040・7549号線の一部

いもやみち

芋屋道… 24

現市道7040・7578号線の一部

がっこうみち

学校道… 25

現市道7508号線の一部

しもにいみち

下新道… 26

現市道7508号線の一部

さかいみち

境道… 27

現市道7046・7026号線の一部

しんきりばしみち

新切橋道… 28

現市道8016・8652号線の一部

きたむらみち

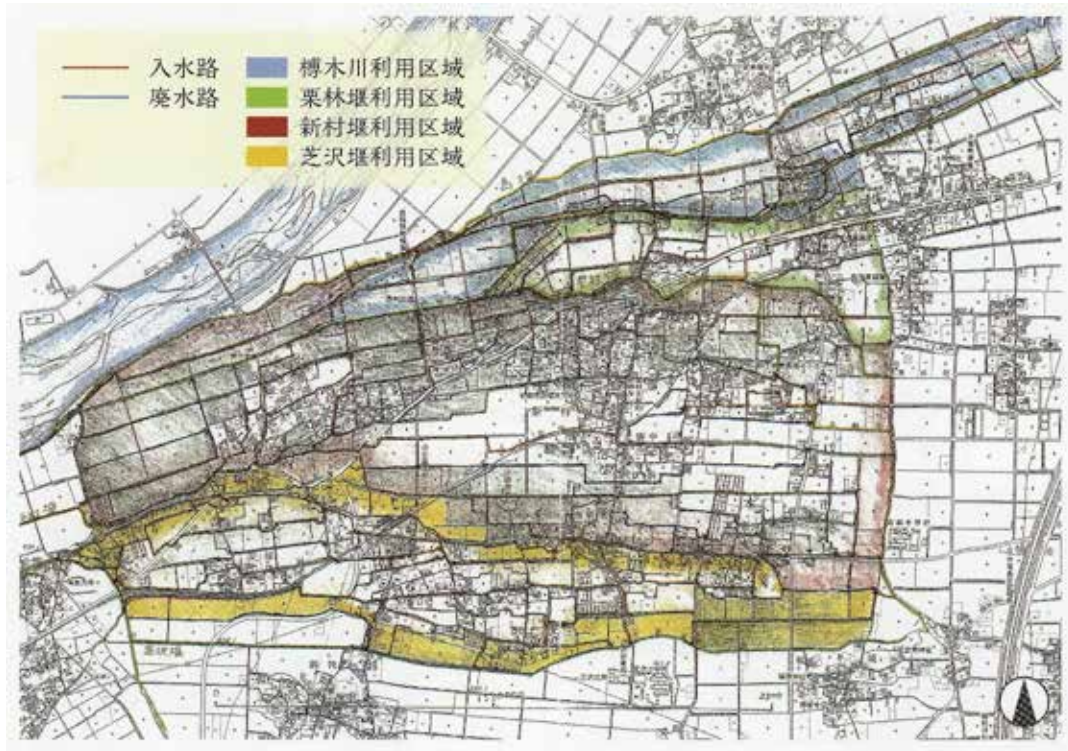
北村道… 29

現市道8017・7031号線の一部

がっこうよこみち

学校横道… 30

現市道7031号線の一部



堰別水利用図 (H17.9~H18.6調査)

図は主な堰とその水の利用分布図である。地区内には、梓川右岸の人々にとって、大切な堰が幾本も流れている。梓川から取水し、「島内堰」「樽木川」「栗林堰」「新村堰」「和田堰」「芝沢堰」である。

各堰は幾本もの中・小の沢や川に分水され、さらに小川が網の目のように作られていて、水にはとても恵まれている。これらは、皆人々によって大切に管理され、守られてきた。昭和53年(1978)からの県営ほ場整備事業により、水路の改修工事がなされ、コンクリート化や、水路の変更等で様相が変わった。

にいむらせぎぶんすいこう
新村堰分水工

現在の分水工は昭和62年(1987)新村堰改修工事の時に新造された。この分水工で南沢(南新方面)と北沢(北新方面)とに分けられる。分水工の上流で水路をS字に歪曲させ水勢を弱めて分水している。二つの沢は約200haの水田を潤す。



49

にいむらせぎじょうりゅう
新村堰上流

分水工の上流で勢いよく流れる新村堰の水は、屈曲した水路を流れ下るうちに勢いが弱まり、分水工へ向かう。先人の工夫である。



50

いわさきじんじゃ
岩崎神社

川干しの神事は全国的にも珍しいという。岩崎大明神にお供えする第一は川魚。以前は7月15日本祭りの早朝、魚を獲るために栗林堰や樽木堰をせき止めたので下流の村々と争いが絶えなかった。今は4月29日が本祭り、川干しの神事は新村堰で行う。



御嶽大権現・秋葉大権現



祭日の本殿

51

おのじんじゃ
小野神社

小野神社の参道は約100m(1町=60間)と長い。この長さには条里制にかかわる長さ。この参道には古木と若木の桜が植えられ、花の時期には見事な花のトンネルとなる。木々の間に7対の石灯籠が並ぶ。鳥居の奥には天保3年(1832)の対の常夜灯が、玉垣の中にも13基の石灯籠がある。小野神社も岩崎神社同様、水の神、農耕の神、風の神などを祀り、後に小野社を勧請した。



参道と桜並木



鳥居・本殿

52